



after

洋室をつなげて大空間となったLDK。
梁が目立たないよう折り上げ天井にしたことで、
奥行き感も生まれました。また、フローリングに
は木目の美しい突板を採用しています。



before



- ①空間にゆとりがあるので、家族がお互いの存在を感じつつ、それぞれの時間を過ごすことができます。
- ②神戸の街並み、大阪湾、時には明石海峡大橋が見えることも。眺望の魅力により実感できる住まいになりました。
- ③1991年生まれの「六甲アイランドCITY イーストコート3番街」は41階建。高層マンションの先駆的存在です。



企画・販売
積水ハウス不動産関西株式会社
神戸東営業所
木村 太溶 / 東條 陸

設計・施工
積水ハウスGM/パートナーズ株式会社
坂本 一郎 / 富永 啓子

今の暮らしに合わせて わが家をアップデート!

+
イマドキ
リノベの
処方箋
17

今回のリノベの舞台は築32年の高層マンション、「六甲アイランドCITY イーストコート3番街」。
ハードとソフトの両面で住まいづくりを熟知する積水ハウスグループの2社がコラボし、トータルリノベーションを行ないました。
家族構成や時代の価値観に合わせた間取りにしたり、人にも環境にも優しい機能をプラスしたり。
住み慣れたわが家をアップデートするヒントが満載です。



住まい心地を追求した「アップデートリノベーション」。

長年住み続けていると、どんなに丁寧に暮らしても床や壁が傷んできたり、水回りなどの設備が古くなってくるものです。

そんな気になる部分のメンテナンスはもろろん、多様化するライフスタイルに合わせて、今の、そしてこれからのご家族にとって心地よい住まいをご提案する。それが積水ハウスグループの「アップデートリノベーション」です。

築32年の「六甲アイランドCITY イーストコート3番街」(以下、イーストコート3番街)ではどのようなアップデートに取り組んだのでしょうか。企画・販売を担当された積水ハウス不動産関西の木村さん・東條さんと、積水ハウスGMパートナーズの坂本さん・富永さんにお話を伺いました。

デメリットをいかに解消し、メリットをいかに高めていくか。

まず、間取りについて、4LDKから3LDKに変更した理由を教えてください。
「30年前のマンションに求められていたことの一つが、部屋数の多さです。当時のライフスタイルには合っていたのですが、空間が細かく仕切られるため、たとえ十分な広さのある住戸でも閉塞感が出てしまいます」(木村)

「そこで今回のリノベでは、100㎡超という広さを活かす設計を重視しました」(坂本)
「暮らしの中心となるLDKは、隣り合っていた洋室をつなげることで約27.8帖の大空間となりました。子育て世代のファミリーでもお子様が独立したご夫婦でも、その時々のお家族のカタチに合わせて柔軟に使っていただく



作り込みをしすぎず、
“余白”のある空



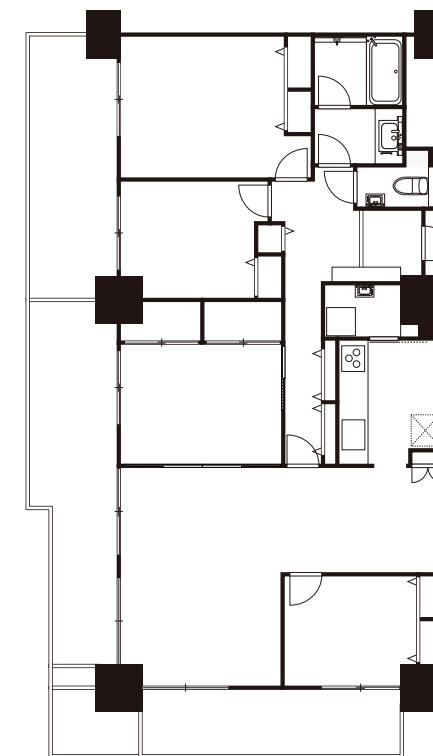
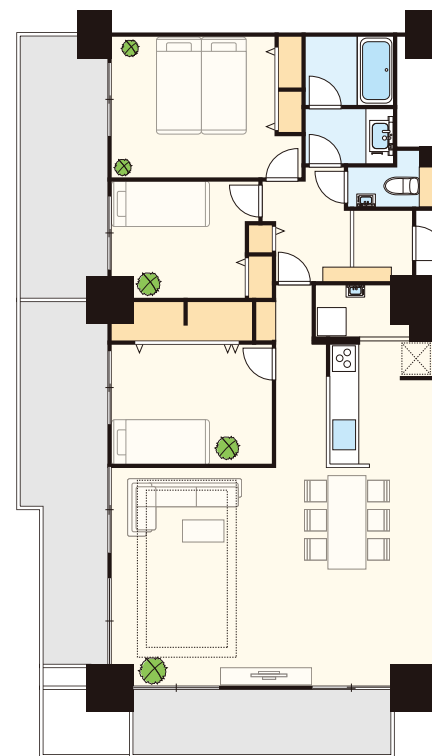
- ④色や照明を変えるだけでも、イマドキの洗練された印象になります。
- ⑤断熱性の高い内窓をつけることで、暮らしの心地よさをアップ。後付け感も気になりません。
- ⑥ディスプレイを楽しめるよう設けたニッチ。暮らしの豊かさにつながるアイデアです。



和室を今のライフスタイルに合わせて洋室に。押入れは使い勝手の良い大容量のクローゼットにしました。



部屋数重視の4LDKを開放的な3LDKに。多様化するライフスタイルに合わせたアップデートで良質なストックを住み継いでいく、積水ハウスグループのリノベ提案です。



サステナブルなリノベ

状態も品質も良く使いやすいものは活用する、というのが今どきのサステナブルなリノベ。今回も、トイレやユーティリティスペースの陶器製洗面ボウルを、メンテナンスした上でリユースしています。



洗面室と浴室の段差を軽減し、設備も一新したことで、安全性と機能がアップしました。

